

(古川委員提出資料)

障害者就業・生活支援センターの現状と課題

平成27年8月3日

1. ナカポツ予算の限度もあり、センター職員の異動が多いため、支援の継続性が困難な状況になりがち
→職員のスキルが上がれば役割と責任も重くなり給与も上がる。しかし、ナカポツ予算内での捻出が厳しく異動となる。一番守らなければならない対象者に迷惑をかけてしまう。
2. 恒常的なマンパワー不足。相談者・就職者増加に伴い、厳しくなるばかり
→難病や生活困窮の問題もあり、支援困難な方も増えている。
3. 何でも「ナカポツにお願いしよう・・・」という感じが多い
→求められている物に対して、整備されていない事やマンパワー不足で動きが取れない。
4. 特別支援学校からの就職者の増加に伴い、学校との連携について課題あり
→就職者の増加で、先生方も見切れていない事や就職準備性という事で明らかに準備性の整っていない段階での就職者が増えている。
5. 相談支援事業所との連携
→相談支援事業所の増加に伴い、就職のキーワードがあるとナカポツにつながるケースが増えている。共通のアセスメントツールや引き継ぎ方法などを標準化できるものはしていきたい。
6. 就労移行支援事業所との連携
→特に定着支援について。総合支援法の枠での定着加算が3年。実際に定着で動ける事業所と6ヵ月の定着支援と決めている事業所とナカポツ頼みの事業所とバラバラな状況。各事業所に合わせた形でナカポツは体制を取るしかないという事なのか。
7. 医療機関との連携
→大分、医療機関との連携が図れてきているセンターが多くなっていると感じるが、医療機関との連携についてうまく進まないという声は良く耳にする。